

働くようになってからもやっぱ、立守ってすごく楽し

かったなと思うしね

語り手 馬野翔平（高校二期生 市役所） 聞き手 杉野 茶仔

学生時代

今の立守（立命館守山中学・高等学校）って僕が行ってた時と多分違うからねえ。でも高校の時の思い出って……。もうちよつと本当に申し訳ない。こんなインタビューに応募しといて……。あんまないんよね正直（笑）。高校の時何やってたかなってのはあんま思い出せへんねんけど。でもその高校の時の同級生とか、その一個下で生徒会やってた子らとか、なんか未だによく遊ぶから。そういう時、立守来て良かったなっと思うんすかね。

―放課後は何をされていたのですか？

生徒会にいた時はもうずっと執行部の部屋の中にいた。

―へー何をするのですか、具体的に。

もう、なんかね、ほんまにただの仕事やったな。なんかこう、書類作ったりとか。その、各方面と、タイムスケジュール調整したりとか。うん、もう、ほんまただの仕事やったね。何が楽しかったんやろうと思うけど（笑）。部活とかやってる方が多分楽しかったと思うけど。いや、ほんまは部活……。え、今って部活絶対入らなあかんのか？

―いや、高校生は別に入らなくてもいいです。

あーやっぱなんかそうか、どっかで変わったんよ、多分それ。僕ら行った時、絶対部活なんか入らなあかんくて。で、元々吹奏楽ずっとやっ

ててんけど、僕が入った時、吹奏楽部なかったのよね。で、なんかね、じゃあもう何しようみたいな感じで。で、一瞬運動部にも入ったりとかしたんやけど、やっぱちよつと、運動系ちよつと無理やったんで、体力がなさすぎて。で、なんもすることないな、でも、部活やらなあかんみたいなので、じゃ、ちよつと生徒会で活動してるからってことで、同じクラスやった人に引ッ張られて生徒会入ったら、みたいな。はい、そんな感じ。

―なんか体育祭とか文化祭の時って生徒会執行部めっちゃ動いてるイメージあるんですけど。

そうそうそう、体育祭と文化祭の時なんかはやめच्याに忙しい。もうなんかいつつも守衛さんとバトルしてた。守衛さんがもういつやったらやめんねん！みたいな感じで。まだ終わってないです！みたいな（笑）。そんなバトル毎日してたのは記憶にある。もうちよつと今がどんな感じでやってやるんか全然わからへんけど、その九時とか十時とか平気でやってたもんな。

―すごい。

別に社会人になっても五時に仕事終わってから残業とかすることあるけども、それと全然、全く一緒。

―なんか大変やなって思いませんでした？

うん、なんか大変やったど……。でも、なんか他にやりたいこともなかったしね、みたいな。うん、その、高校生の当時ね。で、なんか、僕が三年生ぐらいになった時に、吹奏楽部ができたんかな。でも、今更楽器とか買うの高いもんな、みたいな。で、そんなんやったら、生徒会入ろうかみたいな感じやから、あんまりそんな積極的な、なんか学校のためになるようなこととか、そういう崇高な理念は全然なかったんやけ

ど。うんうん、友達いるし、友達頑張ってるし、ほなやろうかみたいな、そんな感じ。そんな気がしますね。

勢いで入った生徒会が変えてくれたもの

―生徒会での人間関係作りの経験は今の仕事にどう影響していますか。

人間関係か。どうだろうね。でも、結局、この生徒会の仕事って、結局なんかこう、生徒……特に文化祭とか体育祭とかそうだけど、なんかこう、生徒がこれやる、あれやるみたいな言ってることを先生に伝えて、先生と調整して、じゃあこんな感じでどうですかみたいな、その生徒と先生のなんか間に入って、なんかこう調整するみたいな仕事がほとんどやったような気がするんやけど。なんかそういう意味ではもう、特に市役所の仕事なんかでも、もうそんな仕事ばかりなんよ。もう、その、人と人との間に入って、こう、どうですか、じゃああなたたちはこう思ってるんですね、じゃあこの辺でどうですかみたいな、落としどころを探してみたいな。やってることは、なんかな、あんま変わらへんような気がするね。だから、その、生徒会の時に、それこそ体育祭前とかで、九時とかでも仕事してたみたいなのは、ある意味、いい仕事の練習になってたような気はするかな、とは思いますね。

いや、僕もね、ちよっとほんとね、このインタビュに立候補してって申し訳ない。高校生の時って、ちよっと聞落ちしてたというか。ちよっとこう、ちよっと鬱っぽくなった。なんか、学校の勉強全然ついていけなくなってた時、学校行くの嫌やなみたいな時がしばらくあったから、あんまり自発的にこう、なんか人間関係を作りにいってたっていうわけじゃないのよね。でも、なんかその、落ち込んでる僕を、その生徒会の人、引っ張り上げてましてね。だから、本当にその時に僕を引っ張

ってくれた友達にはすごい感謝してるけど。なんでしようね、そういう高校の時にできた縁が、まあまあ三十過ぎても繋がってるっていうのはありがたい話かなと。この仕事をしてて、「これ進研ゼミで見たやつだ」みたいな感じになるわけではないんやけど、それこそ、こういうインタビューを受けるにあたって、生徒会、何してたかなとか考えたら、やっぱり、さっきも言ったけど、人に挟まれて仕事をしてきたっていうのは、今仕事する上でも、そういう役に立てるかなとは思うんですけどね。やっぱりこう、市役所って接客業なんですよ。基本的にはこう、窓口があつて、窓口に来た人とやり取りをするっていうのが一番業務の主たる部分なので。あくまで国があつて県があつて、市があるとすると、国とか県の人って、一般人とほぼ合わないよね。で、一般人と会うのは市役所の人だから、やっぱりその市役所の仕事するっていうのが、人と喋るっていうのがすごい求められるのよね、その仕事をしていく上で、で、そういうことを思うと、生徒会してた時、それこそ文化祭の時にはあれやりたいとかこれやりたいとか、みんな好き放題やっぱり言うてきはったりするの。先生にこんなこと言ってるんですけど、これ大丈夫なですか、みたいな。そういつたの調整するために走り回ったりとかしてたのは、今となつてはいい経験してたんかなと思いますね。

自分と向き合うようになったきっかけ

―先程、自分は不真面目だったとおっしゃっていたじゃないですか。その不真面目から、自分が変わったきっかけはなんですか？

なんやろうね。そう、それはね、なんか僕の中でも、なんでなんやろうなつてよく振り返ることはあるんやけど。その高校で、なんか学校行きたくないな、全然面白くないなつてなつた時に、なんかその学校が面

白くだけじゃなくて、人生がもう面白くなっちゃって、高校が嫌になってから。で、なんか勉強が嫌だけだったはずなのに、なんか勉強以外のところもつられて面白くなっちゃうような時期があったの。一年ぐらい。もう今思えば完全に鬱やったと思うけど。で、なんかそうなった時に、これじゃあかんかなみたいなふうには思ってたんよ、自分の中でも。で、どっかで変えたいなみたいな風な思いはちよつとあったのね。

で、きっかけとしては、多分、高校のその生徒会の同級生のメンバーとかなんやけど、もう来いよと、その学校にも来いよみたいな感じで、無理くり、その学校の、それこそ生徒会の仕事を無理くりさせたりとか、そういう風な感じで引つ張ってってくれたから、その授業みたいなところはもう一回入ることができたんやけど。だから、その時の経験的には、面白くないのは、自分がやってないから面白くないんやなっていう風なのは気づいたんよね。だから、なんか、頑張らへんから、わからへんし、わからへんから面白くないしみたいなの。だから、そこを変えなあかんっていう風にやつと気づいたのが、高校三年生のタイミングやったんかな。で、高校三年生でちよつと持ち直して、大学入ったらもうちよつと勉強頑張ろうみたいな風に思うきっかけやったかな。うん。その、頑張れば、勉強ぐらいやったらなんとかなるなっていう風なのが、その高三の時の気づきやったかなって。だから大学入ったら頑張ろうと思つて。

―友達や先生方に沢山お世話になったと思うんですけど、その誰かに助けられた経験は、今の自分の仕事の姿勢にどう影響していますか？

ものすごく当たり前のことで申し訳ないんやけど、嫌なこと後回ししないっていうかね、多分、その、高校の時の僕って、すつこいそういう

タイプだったから、嫌なことを後回しにした結果やらないみたいなの、そういうタイプだったんだけど。

市役所の仕事って、別に今しなくてもいいけど、今やった方がいいよなみたいな、そんな仕事いっぱいあんのよ。でも、その嫌なこと向き合つて、ちゃんと嫌な仕事からやろうっていう風に、今はどちらかというと心がけてはいるんやけど。そういう風な学びを得たのは高校生の時やったかなっていう風に思ふかな。なんか、高校の時の、勉強した内容とか、なんか今の仕事に、直接生きてるかって言われると、ちよつと正直よくわかんないけど。

でも、やつぱ、立守の授業って、やつぱりガチガチの、進学コースは別かもしれんけど、どっちかというところ、なんかいろんなこと勉強させてもらえる。その、文系クラスでもすぐ算数やるし、理系クラスでも、なんか今でもそんなんかな、知らんけど。なんか社会の勉強とかもちゃんと地歴公民一通りあるし、なんか、なんやつたつけ。なんか、すごい楽しい授業があつてん。あれ多分八反先生がやってたやつやねんけど、今でもやつてんのか知らんけど。なんか八反さんが、世界遺産を解説してくれる授業みたいなの。すつこい楽しいそれはもう。ほんと、なんか、世界遺産やつたけな、確か。ちよつと記憶が定かじゃないけど、映像を見ながら、八反さんが解説とかしてくれる、世界遺産の。めちゃくちゃ楽しいですよ、そういう、もう全然その、受験に役には立たへんやろうけど。雑学というか、そうなるってんですねみたいなの、ほんまに単純にこの知的好奇心を刺激してくるような授業。ああいうのは、どっちかというところ、その辺の高校では体験できんというか。で、大学の授業って、それこそ、自分で選べんねんね。どの授業選択したいかとか、もう高校の選択授業がもう全部選択授業になりましたみたいな感じ。今みたいな

システム上どうか知らんけど。

で思うと、自分が興味のあることを、当然自発的にこう、全部取り込んでいかなあかんけど、その代わりに、自分が興味あるからこそ一生懸命勉強しようっていう風に思えるし。だから、そういう、その立守でやってた授業スタイルって、結構ちよつと大学チックというか。大学の授業を受ける四年間は結構すつと入れたんよ。それで、それは、その立守の、受験的じゃない、授業のやり方がこの大学で勉強していくっていうのにすごいあつて。

—立守行って良かったですか？

うん。でも、立守行ってよかったって思ったのは、大学入ってから（笑）。立守にいる最初の時は立守行ってよかったって全然思わへんかった。あ、全然思わへんかったは違うな（笑）。三年生ぐらいになってからは良かったって思い始めたけど（笑）。高校三年生になるまでは、もういつ辞めたるかぐらいの勢いやったけど。

でも、大学入ってからは、ほんまに行ってよかったって思った。だから、それこそ今、そういうさ、こういうなんかおっさんにアポ取ってインタビューしてみたりとか、そういう経験とか、もう絶対大学入ってかいい練習になると思うし、大学入ってから多分わかると思う。ここの良さ。あ、もう今すでに感じてるなら大きなお世話なんやけど（笑）。僕は高校の授業全然楽しいと思わなかったの、当時は。うん、そういう意味では良かった。

だから、大学入った時に、立守の授業、すごいよかったって思ったし。で、大学でそれなりに頑張ってたから、そのあとの就活とか、今の仕事への転職とかもそうやけど、そこから先はそこまで苦勞はしてへんかなって。大学入った時には立守行ってよかったなって思ったし、働く

ようになってからもやっぱ立守ってすごく楽しかったなと思うね。

—馬野さんは産業社会部を卒業されていますけど、理系に行こうとは思わなかったのですか？

興味はあったんやけどね。いかんせん、その、あまりにも高校で勉強が折れた原因が数学やったんよね。数Ⅱ、数Ⅲで折れてしまつて、僕の心が。もうその瞬間に理系っていう選択肢がなくなつたかなって。中学校の頃はどっちかというと理系やつてんだけど。だから、興味がないわけじゃないんやけどね。

—勉強についていけなかった経験は今どう活かされていますか？

うん、それもさっきの話やけど、結局勉強についていけない原因つて、自分が勉強しないからなんよね。だから、勉強についていくためには勉強するしかないっていう、その猿でもわかるような答えにたどり着くの一年ぐらいかかってしまったので。でも、結局自分が楽しくないのもそうやし、自分が勉強ついていけないのも、結局自分の努力が足りひんだけやなっていう風に気づいてから、やることはちゃんとやって、やることやってたら大体のことはなんとかなるというか、そういう思いで今の仕事してるかな。仕事でもそれは難しい話というか、そんな二日で全然答え出えへんような話とか当然あるんやけど、それは別に頑張つたらなんとかなるから。頑張つた結果、失敗すんのはしやあないからって思うようになったかな。

今おるかどうかわかんけど、仕事してるとね、そういう当たり前の……やることはやろうっていう風に思わない人が多いんですよ。そういう人、いっぱいいるのよ。もう多分、社会出たら、そういう人にイライラすることがあると思うねんけど。そうだった時に、自分もそつち側に行くんじゃないくて、自分はやることやった上でね、しっかりと楽しむと

いうか。だから、その職場の人間関係においても、絶対そっちの方がうまくいくんで。何の仕事もちやんとしない人と誰も仲良くしようとはしないと思うんで、仕事をちゃんとやってると、職場行くのも……職場行くのは嫌やけど（笑）。でもそこまで嫌じゃなくなるというか、仕事中心も楽しみの一つや二つでできるなっていうし、そういうのは大事かなと思いますね。

当たり前のことですけど、当たり前のことができない大人なんていっぱいいるんで。その高校の時の経験がどうっていう話をすると、当然僕は一期生だったので、もうそのあらゆることに前例がないんですよ。だからもう何するにしても、なんか全部一から決めるみたいな。で、結構そういうことすんのって、やっぱり体力使うんですよ。生徒会の仕事とかでもそうやったけど。去年やったことがあったら、その日付を一年更新するだけで、今年も行けますみたいなって、仕事とかでもいっぱいあるんですよ。そういう仕事って楽チンなんやな。去年あった仕事のフアイルとかを見返すだけで、こうすればいいんだっていうのがわかるから。特に公務員の仕事ってそうなるけど。

でも、やっぱり、公務員の仕事とかでも、前例のないことをやるのは、やっぱりすごい体力を使うんですよ。で、やりたがらへんし、みんなそういうことって。でも、生徒会とかでもそうやったけど、やっぱり基本的に前例のないことしかなかったから、そういう意味では、生徒会入って良かったですね。

—今仕事をしていてそういう前例がない案件なども積極的にしているのですか？

なんていうの。その、積極的にといいえ、難しいけど、今やってる仕事とか特にそうかな。例えばやけど、十年ぐらい全く同じことをしてきて

た業務とかもあるんやけど、なんかもう、見てるだけで、もう、ムカムカしてくんですよ（笑）。もつといいやり方あるやんみたいな、みんなそれがいいって絶対思ってるんやん、みたいな。

僕もこの四月から新しい部署に異動してきて、その二ヶ月ぐらいその新しい部署で仕事してて、すでにめっちゃ思うねんか、そういうの。もう、今までの担当がいかに前例踏襲しかしてないかも、去年の日付だけ上積みしてたらいいやみたいな感じで、何も考えずに前任がやってたのとか見て、「もう！」ってなるけど。

だから、効率的にというか、その市民のね、一般のその住民の方にとつてもつといいと思わはるようなやり方を変えていきたいとも思うし、そういう風な、変えていこうっていう風なエネルギーは今のところ僕は持ってるんやけど。そういう方向、思いとかはやっぱり相手の住民とかにも伝わるんかなっていう風なのは最近思うかな。

だから、この間とかでも、一般の住民の方と関係者の人とかとみんな集めて会議とか段取りしたんやけど、あの時もな、もうめちゃくちゃめんどくさかったけど、やっぱり会議終わった後に、その来てた住民の人とかから、もうあと頼むでみたいなこと言われたりすると、やっぱりモチベーションにもなるし、そういう仕事のやり方というか、仕事に対するスタンスみたいなのは、もしかしたら立守の時の経験が繋がってるかもしれない。

高校生の私たちに伝えたいこと

多分、立守にいと、そういう機会結構ある気はするけど、なんか大学の、雰囲気というか、ちょっと今、せつかく気になる学部とかが、あったりするんやったら、その大学の学部、授業、ちょっと見学すると

か。なんか今でもそういう機会ってあんのかな。

―夏休み中にオープンキャンパスがあつて。

そうそうそう。例えば、それ。それはまだ、こう言うて、オープンキャンパスやからさ。うん、見せる用やから。僕、個人的には、もっとリアルな本場の授業に潜り込んでみていいんじゃないかなとは思うんですよ。せつかくこの附属校っていう立場を活かすのであれば、大学の授業って、別に勝手に入って勝手に見ても怒られへんというか、講義スタイルやから、席すら自由。普通のゼミの教室とかは無理やろうけど、大学でやつてる講義とかやつたら、勝手に入って勝手に見学とかも全然できるやろうし。なんか、そういうので、ちよつと気になる学部の授業とか潜り込んでみて、ほんまの、本場の授業。その、オープンキャンパスは、言うたら悪いけど、外向けの授業、よく見せようっていうのが多分少なからずあると思うけど、もつと、リアルな大学の授業を見てみてもいいかもしれないし。大学のその学部の雰囲気とかも感じ取れるかなとは思うんで。

―今日はありがとうございました。貴重なお話が聞けてとても楽しかったです。最後に二人で写真を撮りたいです。

こちらこそありがとうございました。こんなんで書けるかわからないけど(笑)。

―いやいや、全然そんなことないです。今日は本当にありがとうございました。

【感想】

今回の聞き書きでは、一期生の卒業生の方からお話を伺い、学校の始まるに関わる貴重な体験を知ることができました。ルールや行事が整っ

ていない中で、自分たちの手で学校を作り上げていった姿に感動しました。今の学校生活が先輩方の努力の上に成り立っていることを実感し、感謝の気持ちが芽生えました。学校の歴史や背景を知る大切さを改めて感じました。



右：語り手 馬野翔平さん

左：聞き手 杉野茶仔